

平成26年度弘前大学への地域課題研究委託事業 成果発表会 公民館による社会関係資本醸成に関する研究



2015年3月23日
弘前大学教育学部
松本 大

1. 公民館とは何か(1)

■ 公民館とは何か



1. 公民館とは何か(2)

つどう

公民館は、生活のなかで気軽に人びとが集うことができる場です。

まなぶ

公民館は、自らの興味関心に基づいて、また社会の要請にこたえるための知識や技術を学ぶための場です。

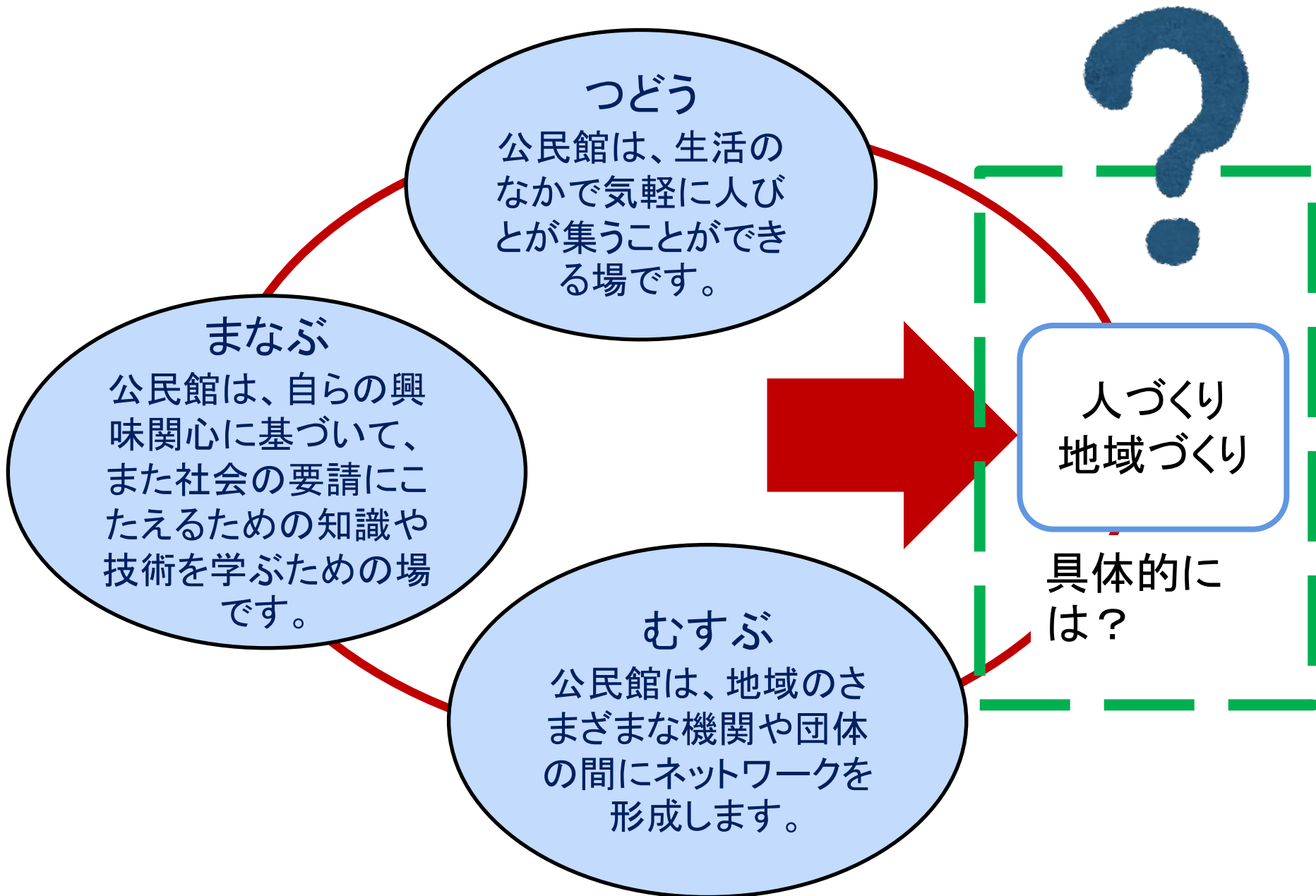
むすぶ

公民館は、地域のさまざまな機関や団体の間にネットワークを形成します。

人づくり
地域づくり

文科省のパンフレットより

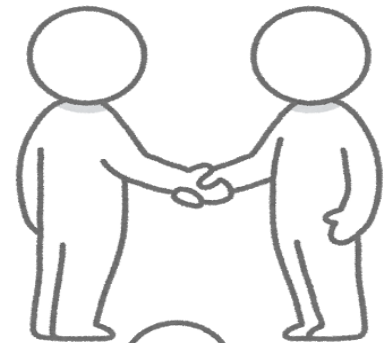
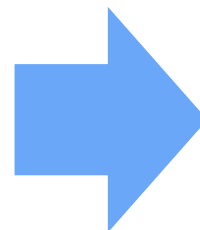
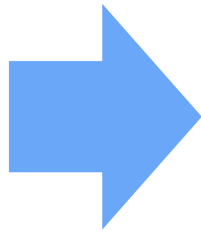
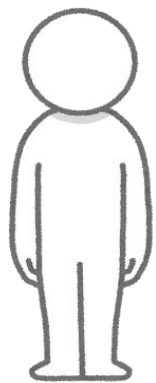
1. 公民館とは何か(3)



2. 本研究の目的

- 公民館は、実際にどのように「人づくり・地域づくり」を担っているのか？
- 「人づくり・地域づくり」をどのようにとらえるのか？
 - 「**社会関係資本**」という概念を参考にした。
 - 社会関係資本とは、人びとの「信頼」、「<お互いさま>の気持ち」、「人のネットワーク」から構成されるもので、こうした**人びとの協調的な関係性が創り出す「力」**のこと。いわゆる、「絆」や「**ご近所の底力**」といったものでイメージされるもの。
 - ⇒公民館は、どのような「**つながり**」を生みだしているのか？公民館を利用すると、人の「**行動**」や「**考え方**」はどのようになるのか？

3. 本研究のイメージ



弘前市に
おける
公民館
利用者は

どのような過程で？

どのような価値や行動
(社会関係資本)を
生み出すのか？

4. 調査の概要(1)

■ 調査対象

- そもそも弘前市に公民館はどのくらいあるのか？
→市の条例で定められている「公民館」は、
「弘前市立中央公民館」と、12の「地区公民館」
⇒今回は12の「地区公民館」全てを調査対象とした。
- 「地区公民館」に、「よく公民館を利用している人」を各館3名
前後紹介して頂いた。
→合計30名にインタビュー調査を実施。
(性別・・・男性9名、女性21名
年齢・・・40代5名、50代3名、60代10名、
70代10名、80代2名)

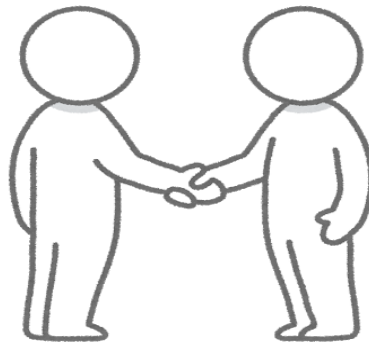
4. 調査の概要(2)

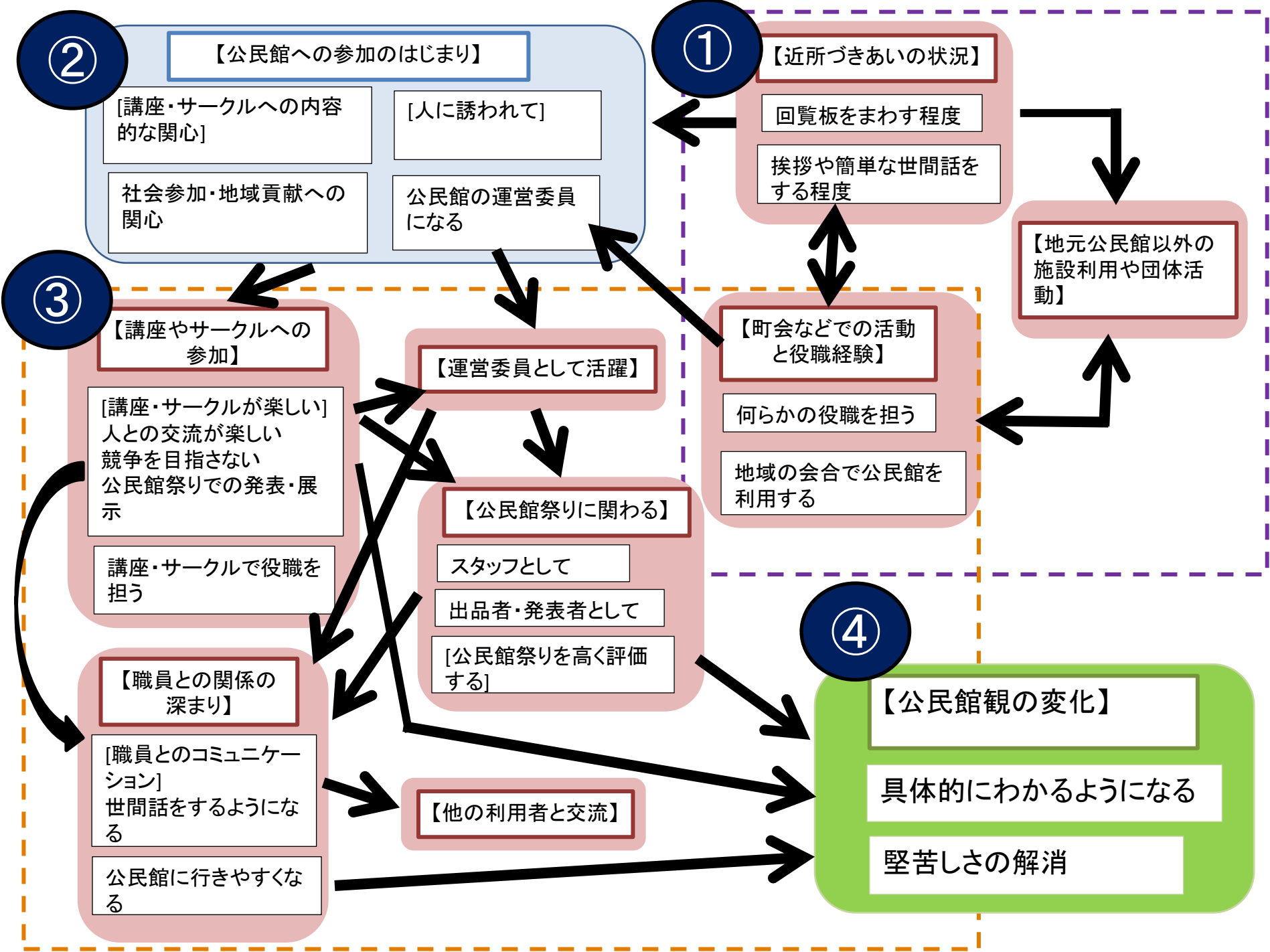


1	石川公民館
2	清水公民館
3	裾野公民館
4	高杉公民館
5	千年公民館
6	東部公民館
7	新和公民館
8	東目屋公民館
9	藤代公民館
10	船沢公民館
11	堀越公民館
12	和徳公民館

5. 結果の概要

- インタビューのデータを分析した結果、**公民館の利用がどのような価値や行動をどのように生み出すのか**を、次のページの図としてあらわすことができる。





【公民館観の変化】

具体的にわかるようになる

堅苦しきの解消

④

【地域における公民館価値への気づき】

[公民館は地域の力を高める]
地域に活力を与える
地域住民の社交の場
地域のまとまりをつくる

[公民館の設備面での価値に気づく]
体育館や調理室などの設備面
無料であることへの評価

公民館は情報交換の場である

【公民館の課題を認識するようになる】

[人や広報の問題]
世代交代・後継者不足
参加者数が少なく、固定化
どのような施設かわからない人が多い

施設の古さ・狭さ

特に課題はない

⑤

【公民館利用が育む価値と行動】

[心理的・身体的充実]
心理的な充実
身体的な維持・向上
家庭生活への好影響

[活動や関心の創発と拡大]
積極的になる
活動が広がる
新しい活動がはじまる

["お互いさま"と"地域貢献"
志向の形成]
地域に貢献しようとする
お互いさまの気持ちを重視
"みんなで一緒に楽しむ"

[公民館への帰属意識の高まり]
公民館への評価が自分のことのように
うれしくなる
住民に公民館をもっと利用してもらいた
くなる

知識や情報の獲得

[社会的ネットワークの形成と拡大]
地域住民を知ることができる
地域住民との交流が広がる

- 今日の発表会では、図の①～⑤について、概要を説明。



6. ①公民館利用者の近所付き合い(1)

- 公民館利用者は地域社会のなかでどのように過ごしているのか
- 【近所づきあい】
 - 「あいさつや世間話をする」程度と認識されている。決して活発な近所づきあいがあるというわけではない。

事例9: 隣近所では回覧板持って行った時とか、その時に立ち話するとかそんな感じかもしれない。会えば話はするけど、わざわざ時間を設けて話をするとかっていうのはできない状況かもしれない。

事例17: ほんとに朝から晩まで仕事で、回覧板回すくらい。葬式があるときに集まるくらい。

6. ①公民館利用者の近所付き合い(2)

- 町会などで役職を担う → 会合で公民館を利用

事例5: たぶん子どもが小学校にあがれば、必然的に必ず公民館には何回も来ることになるんですよ。PTAにしろ、部活にしろ、要は**学校関係ない打ち合わせはここしか場所がない**んで。

事例8: 場所的にここは、町会のってことで貸してもらったり、町会の行事の中でもちょっと借りたり、こういう**みんなの大勢集まれる場所**ってないんで。

- また、近所づきあいの状況が活発でないために、地域での交流や活動を求めて講座やサークルに参加することもある。

7. ②公民館に参加しはじめる(1)

- このような近所づきあいの状況を背景にもちながら、公民館利用者は公民館に参加しはじめるようになる。

→彼らは、「自分が公民館に関わるようになったきっかけ」をどのように認識しているのだろうか？

① 講座・サークルへの内容的な関心

事例1: 仕事リタイアしたらどうしようかなって考えてたところに、こういう高齢者教室ありますよっていう回覧っていうかチラシがね、回ってきましたもんで。どういうものかなあと。

② 社会参加・地域貢献への関心

事例19: 何かに出てあれしないと誰とも友達にならないなと思って入りました。

7. ②公民館に参加しはじめる(2)

③ 人に誘われたから

事例29:きっかけは、子どもが保育園に入ってる時に、そういうお母さんたちと会って、誘われたのがきっかけだと思います。

④ 公民館の運営委員になったから

- 町会長や育成委員、民生委員などの役職
→公民館の運営委員に選ばれる

8. ③公民館で「楽しく」活動を行う(1)

- このような経緯で、利用者たちは【講座・サークル】や【運営委員】として公民館で活動をおこなうようになる。
- 注目したいのは、利用者は、公民館での活動を「楽しい」と考えていること。
→彼らの「楽しさ」はどこから生じているのか？

事例10: お昼があるせいか、お漬物とか手作りのおやつとかそういうのも結構皆さん持ち寄ったりするので、そういう楽しみもある。

事例1: 皆さんでわいわいがやがや作品を作って皆さんで発表したりして。「ああでもない、こうでもない」って楽しんでるということです。

8. ③公民館で「楽しく」活動を行う(2)

事例2:文化祭で作品展ありますんでね。そうすると1年の目標ができますよね。で、上手くいったりしてこうお客さんに、たくさんの方々に見て頂くんですよ。そうすると、そこで褒められた人は嬉しいでしょ。人間ですものね。そうするとそれが次の励みになって、じゃあ来年もまたっていうふうに。

→公民館での活動の楽しさは、活動が高度な競争を目指さず「**人との交流**」を重視しているところから生じている。

⇒さらに、「**公民館祭り**」での発表・展示が、**活動に張り合い**や「**やりがい**」をもたらしている。

⇒しかも、毎年「**公民館祭り**」には多くの住民が足を運ぶ。

→「**展示・発表**」や「**スタッフ**」としての成功体験の獲得

⇒ますます公民館活動に「**はまっていく**」。

8. ③公民館で「楽しく」活動を行う(3)

■ このようにして公民館への関わりが深まるとき、「職員とのコミュニケーション」も深まっていく。

→このとき職員は、積極的に利用者に声をかけるという形で、利用者が公民館に来やすくなるための支援をおこなっている。

⇒次第に利用者は、事務室でお茶を飲んだり、“世間話”をするなど、職員と打ち解けたコミュニケーションをとることが可能になる。

⇒このようにして利用者は、「公民館に行きやすい」と感じるようになる。

8. ③公民館で「楽しく」活動を行う(4)

事例9:コピーしに来たりとか、そのついでにお茶を飲んで(事務室に)長時間居るってことはあります。

事例16:1回でも2回でもこの公民館の行事に出たから、中にいる館長さんが、「今、あれお茶っ一杯飲んでいかないか」とか、「どーも」ってまわったりするから。それからこう、なんて言えばいいべ。使わさったっていえばおかしいけど、足運んだっていえばおかしいけども。

事例6:やっぱり、特別用なくても、例えば今日館長さんがいる日だなと思うと、「つい、行ってみよう」と思う。館長は「いつでも遊びに来てください」と、ほんと親切に言うもんですから。

9. ④「公民館観」が変わり、公民館が「わかる」(1)

- このような公民館への関わりの深まりのなかで、利用者の「公民館観」が変わる。

⇒公民館がどのような施設なのか、どのような意義をもつのが「わかる」ようになり、公民館を「公民館」として認識するようになる。

事例18:何かはやってるんだろうけども、私にはちょっと関係ないって言えはあれですけど。

事例4:初めは限られた人しか来られないと思っていた。だけど入ってみたらそういうことじゃなくて。最初は、入っていいのかなと思ったんですけど、いろんな人に声をかけてもらって、来るきっかけができたので。

9. ④「公民館観」が変わり、公民館が「わかる」(2)

■ では、どのような「公民館観」がつけられるのか。

① 公民館は「地域の力」を高めている

事例12: **地域のためにさ、活力与えてる**場だと思うよね。ここがなければ誰もさ、集まってきて何かやるとかそういうのありませんので。

事例2: **地域づくりだとか仲間づくりの拠点**になる場所じゃないかって。そうすると、ここは一種の**地域のたまり場**になれば最高じゃないかなって思っているんです。

事例25: やっぱ**中心になっている**んじゃないかな。もちろん学校もあるけど、ここが違う意味でまた、中心になっていると思います。**無ければ困る。空気みたいな**感じで。

9. ④「公民館観」が変わり、公民館が「わかる」(3)

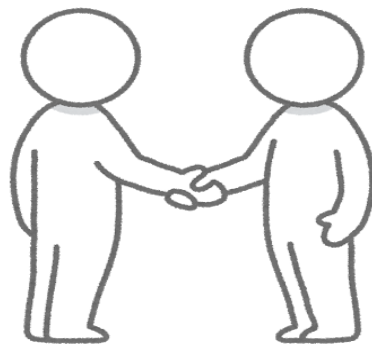
② 公民館の設備面での価値に気づく

事例4: 調理室もあったり、やっぱり何のイベントするにしても、絶対にここが必要なので私としては本当にありがたい。

事例12: 公民館は、みんな申し込みすればタダだからさ、一応こういうことで大変助かってます。人が集まる場所として、公民館が1番だと思っています。

10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(1)

- 以上の過程を経て、公民館利用者には、次のような「行動」や「価値」が創発されていく。



10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(2)

① 心理的・身体的に充実する

→「前向き」に「元気」になったり、「生活に張り」を感じるようになる。

事例13: **ここは私の別荘**なのさ。うん、楽しいもの。ここに来てお友達もいっぱいできてさ。楽しいんだって。腹立って帰る事無いもの。家にいれば黙って何か縫ってるとかさ、それしかないじゃん。いっぱい笑って帰れるんだって。腹立つこと無いって。

② 活動や関心が創発したり拡大する

→活動に「積極的」になったり、「広がったり」、「新しい活動をはじめたり」する。

事例9: 積極的になったかなと。やれない、やったことないことも、「じゃあやってみます」みたいな。チャレンジ。何事に対してもね、割と。年齢に関係ないんだなみたいな、いつからでもできるんだなみたいな。そういうふうにはなったかもしれない。

10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(3)

- ③ 「お互いさま」の気持ちを重視したり、「地域に貢献しよう」という気持ちが強くなる。

事例9: やっぱり自分のことだけを考えて行動するということがなくなったというか、あるだろうけど常にみんなのことを考えながら行動するようになった。

事例19: 地域にまた戻してやれるっていうのがいいんじゃないかなって私はね。ただ自分で覚えただけでなく、覚えたものを、また地域の方たちに指導できるっていうのは。

事例20: やっぱりこの村を、この町会をもっとよくしたいっていうのは思います。すごい田舎だし、廃れていくような感じなんだけども、もっと今自分にできることはないかなって日々考えます。

10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(4)

④ 公民館への帰属意識が高まる。

→「公民館への評価」を自分のことのように喜んだり、住民にもっと公民館を利用してもらいたいと思うようになる。

事例7: 自分としても嬉しいですよ。 「ここの公民館そんなこと」って言われれば、ちょっとしゅんってすんだけど、良いこと言われればすごい私としても職員でなくても楽しい。嬉しくて。

事例14: 若いお母さんたちがもっと利用するようにていうか、みんなで楽しくやるにはどうしたらいいかなっていうのは考えたりするよね。

10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(5)

⑤ 知識や情報を獲得する。

→「講座などで知識を獲得する」というだけではなく、料理を持ち寄ったり、生活に関する情報交換をしたりという、**地域で生きる「知恵」**の獲得。

事例14: やっぱりあの、**先輩たちがいろんな知識を持っている**んですよね。料理に対しても、「あ！こうしてやればいいんだ！」とか、そういうことを教えてくれるんですよね、手とり足とり。こういう時はこうすればいいんだよ、これさこれを混ぜればもっとおいしくなるよ、とか切り方はこうだよ、とか1つひとつですね。畑どこまでいったとか、畑のこういうことはこうしてやればスムーズに行くよとかいうのもやっぱり勉強になるし。

10. 特定の「行動」や「価値」が創発される(6)

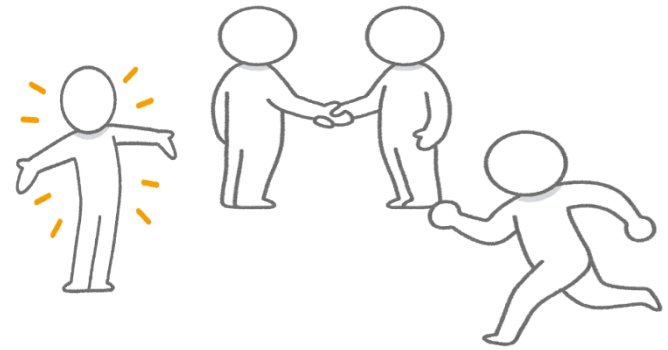
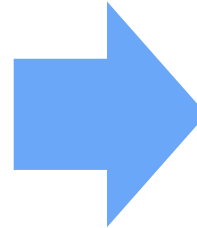
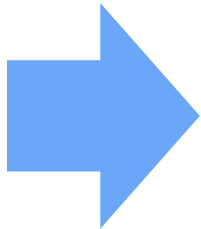
⑥ 社会的ネットワークが形成されたり拡大したりする

- 公民館を利用することによって、特に、「自分の住んでいる町会以外の住民と知り合う」ことができたり、さらにこうした関係性が広がったり深まったりする。

事例9: 私は他の町会の人とか全然知らない訳ですけど、ここにいることによって知り合いになれたっていうので、本当に交流の場です、公民館はね。

事例18: 何ていうんだらうな、知らない人でも顔見知りになるっていうと変なんですけど、何回か見てると、「ああ、あの人はどこどこの人で」とか聞いたりとか。何か幅が広がる。何ていうか。出会わない人に出会える？ 出会わない人に出会える。

11. まとめ(1)



弘前市における
公民館
利用者は

どのような過程で？

どのような価値や行動
(社会関係資本)を
生み出すのか？

「講座・サークル」「公民館祭り」「職員とのコミュニケーション」などをとおして、「楽しく」公民館への関わりを深めながら、「**公民館観**」が**変容**

- ・心理的・身体的充実
- ・活動や関心の創発や拡大
- ・「お互いさま」と「地域貢献」志向の形成
- ・知識や情報の獲得
- ・公民館への帰属意識
- ・社会的ネットワークの形成と拡大

11. まとめ(2)

■ 本研究の主たる成果

① 公民館の社会的意義を確認できた。

→公民館は人づくり・地域づくりにつながる「土づくり」を担っている(本研究が明らかにした6つの「価値観と行動」)

② 公民館が社会的価値を生み出す「過程」を明らかにできた。

→重要な鍵を握るのが「公民館観の変容」

③ 「公民館観の変容」はどのようにして起こるのか。

1. 利用者は「楽しみ」のある活動のなかで、知らず知らずのうちに形成
2. 単に「お客さん」ではなく、主体的に、持続的に参加
3. 職員の支援・・・公民館が「居場所」になるための支援。

11. まとめ(3)

■ 今後の課題

- ① 「楽しい」だけではダメ。「持続的に利用している」だけでもダメ。
 - 実際、地域の会合で公民館を継続利用している人は多い。
 - しかしそうした人たちの多くは、公民館を「公民館」として認識していないのでは。公民館を「公民館」として認識してもらえようになることが重要。
 - そのためには、「楽しさ」と「持続性」の両方をもった利用者をもっと増やすことができるのが課題。
- ② 公民館が「居場所」となるための、職員の方々の支援が評価されている。
 - 雇用形態など、より安心して働くことができる仕組みづくりを。